

地域に育てられる自信と誇り

小谷小学校長 中西 佳澄

これまで小谷小学校の学校運営協議会では、地域の歴史学習に力を入れ児童が誇りと自信を持つ教育活動に大きな成果を残してきました。小谷城こどもガイド隊の活躍によりその実績が広く一般の方々にも発信され、さらなる発展を続けているところです。また、本年度より「星空観察会」として、親子で学ぶ自然学習の取組を開催しましたところ、予想を超える多数のご参加をいただき大変好評を得ました。春の城まつりに行われた親子での現地学習会でもそうでしたが、保護者の方々も一緒に楽しく学べる機会をさらに広げていければと考えています。

というのも、子どもたちはいろいろな「つながり」によって育てられるということをよく耳にするからです。家族、地域、学校、友達などと、楽しい行事や充実した時間を過ごしながらいろいろな絆を深めていくことが、自尊心、学力、生活、人間関係を高めていくために有効で大切なことだと言われています。そのために、地域の教育資源を使い、友達や家族や地域の人も交え、地域の人材から体験的に学ぶことは、大変意味のあることであり学校運営協議会が今後進めていくべき課題であると考えています。

こうした取組が今後も引き続き継続されますよう、また新たな課題に向けさらに発展するよう、これからもよろしくご理解・ご協力をお願いします。



学校評価アンケートより (良評価の割合)

	保護者アンケートの項目		児童アンケートの項目	
1	子どもたちは学校を楽しみにしている。	92.1%	毎日学校が楽しい。	91.3%
2	相手を思いやり、互いに助け合うなどの行動ができる。	97.2%	自分のクラスは優しい友達が多いです。	91.3%
3	異なる年齢の友達とも仲良くしている。	98.7%	色別(隊)は、大事な活動だと思っています。	90.4%
4	約束やきまりを守って生活していますか。	93.4%	給食の準備、片付けはきちんとできている。	93.3%
5	子どもたちは「あいさつ」ができています。	86.8%	元気に自分からあいさつができています。	92.3%
6	家庭学習は十分である。(昨年度68.9%)	85.5%	勉強(宿題)を毎日しています。	92.5%
7	読書の習慣は身につけている。(昨年度61.3%)	59.2%	家庭で読書ができました。	91.5%

上の表は学校運営協議会で本年度特に大切にしてきたことがらについての保護者と児童の結果(良評価の割合)の比較です。1の項目については子どもたちが学校を楽しんでいると思っていて、保護者もそのことを感じていることがよくわかります。また2から5の項目では「相手を思いやり、互いに助け合える」「異なる年齢の友達とも仲良くできる」「約束やきまりを守る」「あいさつがしっかりできる」等の小谷小児童のよさがよくわかる結果となりました。

また、今年度力を入れてきた家庭学習については「家庭学習は十分である。」と感じておられる保護者が昨年度の68.9%から85.5%にアップしたことから、ある程度の効果が得られたのではないかと受け取っています。しかし、「読書の習慣は身につけている」は昨年度の61.3%から59.2%とややダウンしています。家庭での読書については再考し、子どもたちへのアプローチのあり方を探りたいと思います。

さらに分析の結果から本校児童は覚えたことを人前で大きな声で話す力はあるが、突然の質問に対応したり、知らない人に対して自分の思いを説明したりすることは苦手であることがわかりました。伝え合う力(コミュニケーション能力)を高め、生活場面で臨機応変に対応する力をつける必要があります。

その他、今回の保護者アンケートでは記述式で回答をいただきましたところ、大変たくさんの建設的なご意見を頂戴し、ありがとうございました。今後の学校運営に活かしたいと考えています。



学校や郷土を愛し、誇りと自信を持つ子に育てよう

長浜市立小谷小学校
学校運営協議会事務局

長浜市小谷丁野町524番地
TEL.0749-78-0036

地域とともにある学校

学校運営協議会会長 北村 圭弘

10年、20年、30年前、そして40年、50年前…。地域の今を担う大人たちの多くは、もとは小谷小学校で学んでいました。そして10年後、20年後、30年後、小谷小学校で今学ぶ子どもたちは大人になり、きっとこの地域を支えてくれることでしょう。

こうした視点に立てば、地域に根ざした学校は地域の礎(いしずえ)であり、地域社会を支える最重要のインフラの一つとして、学校を核とした地域づくりに大いに貢献することが可能です。たとえば、学校と地域には多くの共通する課題(ふるさと教育、人権教育、防災教育、環境教育など)があります。こうした課題の解決にあたって、地域の今を担う大人たちが、地域の未来を担う人材(子どもたち)の教育に主体的にかかわっていく。こうした地域とともにある学校づくりこそが、学校を核とした地域づくりを促進し、学校と地域のあいだに「Win-Win」の関係を築くのです。

ところで、一方では県外大学に進学し、そのまま県外で就職することになる子どもたちが少なからずいることも確かです。ここで、もう一つ大切なことは、こうして地域を離れた子どもたちがどれだけ故郷を慕ってくれるか、ということです。故郷を大いに思ってくれる出身者がたくさん存在するということは、地域にとって大きな財産となるからです。

いずれにせよ、子どもたちが地域の人々にどれだけ愛されたと感じるか。このことがこの地域の未来にとって、きわめて重要であることは疑いありません。地域の今を担う大人たちの責任は、いや応なく重いと言えるでしょう。

「小谷城こどもガイド隊の活動」

学校運営協議会委員 伏木 正和

ふるさと小谷への愛情と豊かな心を育み、地域の担い手としてたくましく育て欲しいという願いを込めて発足した『小谷城こどもガイド隊』。その活動も4年が経過しましたが、年々充実した活動に成長しています。「大きな声でよく分かるガイドでした。素晴らしい子どもたちですね。」「緊張しながらも一生懸命頑張っている姿に感動しました。こんな子どもたちに出会えて、今日はラッキーでした。」「このような活動ができる子どもたちは幸せですね。今後も続けてください。」等、子どもたちが案内したお客様から多くの賞賛の声をいただきました。

今年度から6年生は、5人程度のグループを組み、小谷城バスを降りた番所前駐車場から本丸跡まで、お客様に随行しながらガイドすることにしました。1人が何カ所もガイドすることになり大変だったようですが、ガイドマニュアルをしっかりと覚えて、自信を持ってガイドできました。



最後の活動を終えて、『ぼくは、大人になっても小谷城のガイドがしたいよ。』と、ぼつりと言った6年生児童の嬉しい言葉が忘れられません。

城祭りを核にした「浅井氏と小谷城」の学校での学習を生かし、地域の活動として定着していくよう今後も継続していきたいと思えます。保護者の皆様や地域の皆様の絶大なるご支援・ご協力をよろしくお願い致します。